

御挨拶 2

(社) 日本経済団体連合会 経済法規委員会 企画部会長 八丁地 隆 氏

ご紹介いただきました日本経団連の経済法規委員会企画部会長を務めております日立製作所の八丁地であります。株券電子化フォーラムの開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げたいと存じます。さて、2009年1月の株券電子化の実施までにいよいよ11カ月を切ってまいったわけであります。株券の電子化はすべての上場会社の株券を、法律をもって一律に無効にし、振替口座簿による管理に移行させるという会社法制史に残る大事業でございます。その円滑な実施に向けまして、日本証券業協会および証券保管振替機構をはじめとする関係者の皆様におかれましては、必要な実務の対応、また、株主、投資家への周知徹底など、たいへんなご尽力をなさっていると伺っているところであります。

株券の電子化にあたりましては、一般株主を含め関係者が非常に多岐にわたるということでございまして、お互いの連絡を密にすることが肝要であります。それとともに、予想もできないような事態が起こることも十分にあり得るということから、移行の手続きは残された11カ月の間で十分スケジュール的に余裕を持って進めていくことが必要であると考えております。

この株券電子化を混乱なく、また円滑に実施をするためには、いわゆるタンス株と呼ばれております上場会社の株券を証券保管振替機構に預託していない株券の所有者に対しまして、より一層の周知徹底を図る必要がございます。私ども上場会社でも一昨年より株主に送付いたします株主総会決議通知に日本証券業協会が作成されました株券電子化を紹介するリーフレットを同封いたしまして、タンス株主の掘り起こしを行ってまいりました。株券電子化の成功に向けまして引き続きこのような周知、啓蒙活動に必要なご協力を行ってまいり所存であります。また、上場会社におきましても、制度の移行に向けまして必要な定款変更の準備、特に端株発行会社における端株の廃止に向けた対応などさまざまな手続きをこなしていく必要がございます。

私ども上場会社にとりましては、株券電子化による大きなメリットが期待をされております。株券電子化によりまして券面としての株券の発行および管理にかかわるコストが削減できるために、総合的なコスト削減効果が強く期待されているところでございます。すでに証券保管振替機構におかれましては、昨年11月に株券等振替制度におけます手数料要綱をお示しになり、新たなコストの一部が明らかになったところでございますけれども、

代行手数料、特別口座のコストなども含めまして、発行体にとって十分メリットがあることが本制度の円滑な移行にとって不可欠な条件であろうかと存じます。また、株券電子化後は総株主通知の制度が導入され、正当な理由に基づき、自社の株主が誰であるかという情報を現在よりも適時適切に把握できるようになり、新たな利便性の向上も期待されております。

株券電子化によりましてこうした全体的なコストの削減のみならず、証券決済システムの安全性および効率性を向上させることが期待をされております。こうした電子化の恩恵が、発行体、投資家など、すべてに及びますように、ぜひとも証券保管振替機構、証券代行等、市場関係者のご協力をお願いするところであります。最後に、関係者の皆様におかれましては、市場の発展のための改革に取り組まれ、わが国の証券市場が世界を代表する魅力あふれる市場となることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。